

**2022年度(令和4年度)**

**自己評価報告書**

**学校法人 東北外語学園  
東北外語観光専門学校**

## ■2022年度（令和4年度） 自己評価について

本校では、学生等が関係業界等のニーズを踏まえたより質の高い職業教育を継続的に享受していけるように、学校運営の改善を目指し学校自己評価を行いました。評価にあたっては、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に実施しております。この自己評価の結果を活用し、さらなる教育活動並びに学校運営等の質の向上に努めてまいりたいと考えています。

1. 対象期間：2022年（令和4年）4月1日 ～ 2023年（令和5年）3月31日

### 2. 実施方法

- (1) 実施時期：2023年5月
- (2) 実施回数：年1回
- (3) 実施体制：校長を中心に教職員で自己評価を行っております。
- (4) 評価結果の公表方法：当該報告書を本校ホームページに掲載

### 3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施しております。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

評価項目の達成および取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
①	学校の理念・目的・育成人財像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
②	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④	学校の理念・目的・育成人財像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
⑤	各学科の教育目標、育成人財像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 学園全体の教育理念については『経営理念書』に述べられている。また、目的・育成人財像については、学則に、「欧米等の語学に関する専門教育を施し、高度な語学力と豊かな国際感覚を養うとともに、あわせて一般教養の向上をはかり社会の発展に寄与する有為な人材の養成をはかる」と述べられており、それに則して定められた各専門分野の特性はパンフレット等で明確に示されている。めまぐるしく変化していく社会に柔軟に対応することができる職業人を育てるために、能動的学習能力、自分で考える力、豊かな想像力を育む指導を目指していきたい。
- ② 国際化社会に対応できる人材を養成するため、どの学科にも共通する特色は、外国語科目を必修とし、語学力の継続的向上を可能とするカリキュラム編成を行っていることである。また、すぐれた職業人・社会人になるために必要とされる様々な素養を身につけられるように、キャリアガイダンス関連の授業を全学科で開講している。全学生を対象とした合同企業説明会などを実施し、随時個人面談に応じられる体制を整えている。一人一人の希望、個性に合わせて進路指導を行っている。
- ③ 従来の学科(プロフェッショナル型学科)に対し、ユニバーサル型学科と位置付ける「ビジネスデザイン科」を令和2年度開設し、同じコンセプトに基づいて、令和4年度には「国際コミュニケーション科」を新設した。これらの学科は、より多くの人に対して専門学校への門戸を開放することを目的としており、自立進学も可能となるように学費を設定し、納入方法について改善を図った。プロフェッショナル型学科に比べ、幅広く学べることを特徴としており、ICTの時代に対応できるようパソコンを使いこなせるカリキュラム編成になっている。今後も時代の要請に応えられる学科編成を構築していく。
- ④ ホームページ、学校紹介パンフレット等を通じて、できるだけ多くの人に学校の理念・目的・育成人材像などをわかりやすく伝えられるように努めている。また、オープンキャンパス、入学相談会などにおいて、本校職員、在校生の話を直接聞いてもらう場を多く設けることによって、学生・保護者等に本校の特色をよりよく知ってもらうようにしている。
- ⑤ 社会情勢、業界のニーズの変化にたえず注意を払いながら、学科等の編成はもちろん、各学科のカリキュラムについても検討を重ねながら、改善を図っていく。

## (2) 学校運営

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
④	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
⑤	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

### ■ 状況、課題、改善策について

- ①② 理事会で承認された事業計画をもとに毎年運営方針を策定している。事業計画及び運営方針は学校法人の全職員を対象とした会議等の機会により周知している。
- ③ 学校運営に関する組織は整備されており、必要に応じて部門間で意見交換の上、適正に判断し業務を遂行している。
- ④ 規定の整備は随時行っている。特に年休制度については「学園年休」「疾病休暇」の制度を学園独自で整備し、職員の急な休みにも対応できるようにしている。
- ⑤ 意思決定については学園の規程において定められている校務分掌、職務権限に従って行われ、有効的かつ効率的に運営されている。各部門ごとに校務分掌表を作成し、担当する業務を明確にしている。
- ⑥ 学校として法令や基準等で確認が必要な場合は、宮城県担当者に随時問い合わせ適切に対処している。また、グループ法人の顧問弁護士等に相談し、学校としての基本的なコンプライアンス体制は整備されている。
- ⑦ 各種学校行事の活動状況や学科毎の教育活動・成果については、ホームページで情報公開を行っている。
- ⑧ 職員間及び非常勤講師との打ち合わせについては、WEB会議システム (Zoom, Google Meet) なども活用し、滞りなく行うことができている。

### (3)教育活動

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
②	教育理念、育成人財や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
⑥	関連分野における実践的な職業教育(産学連携におけるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
⑪	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
⑫	関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	③	2	1
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

#### ■状況、課題、改善策について

- ① ホームページで教育理念がわかりやすく示し、課程の実施方針および編成に反映させている。
- ② 各科毎に必要な知識・目標の到達時期の学修時間を確保している。
- ③ 毎年、体系的なカリキュラムになるように検討・改善している。
- ④ 実技を通して実践的な授業を実施、職業意識を持たせることを意識したカリキュラム編成としている。
- ⑤ 各科で各関連分野での企業との連携、実習等を企画・実施している。
- ⑥ インターンシップに関して昨年度までは各科によって偏りがあったが、科を問わない企業も増えていたため募集枠を広げ実績に繋がっている。さらに各科でも、実技や実習の機会を増やし実践的な能力を養うことで進路選択の幅を広げたい。
- ⑦ 全科目で授業アンケートをGoogle Formで実施。担当講師には結果をフィードバックしている。ハラスメント等のトラブルを未然に防ぐため、併せて授業見学やヒアリング等を活発に行う。
- ⑧ 学校関係者評価委員会などで学校評価を行っているが、各職員への周知を徹底したい。

- ⑨ 判定基準は明確であり、学生への周知も徹底している。
- ⑩ 取得目標資格、検定の合格率向上や取得者人数増加に結び付くよう、各学年各学科毎にカリキュラム作成をしている。また保持級やスコアに合わせたクラスを設定し学生一人ひとりの習熟度にあった環境を整えている。今年度は英検1級、TOEIC990点取得という結果に繋がった。
- ⑪ 各業界の経験者等、業界の専門知識を備えた教員による授業を行っている。連携企業と情報交換を密に行い、業界の知識、実際の現場で生きる知識を修得できるカリキュラムを組んでいる。
- ⑫ より優れた教員確保のため、企業との連携を図っていく。
- ⑬ 学外の研修に多くの教員が広く参加できるようにしたい。
- ⑭ 外部の研修会に今後はさらに積極的に参加したい。

#### (4)学修成果

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
②	資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
③	退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

#### ■状況、課題、改善策について

- ① 前年度に比べて求人数が著しく増加し、就職率(就職希望者)100%を達成することができた。インターンシップや職場見学などを通じて、現場での経験を増やし職業選択の幅を広げたい。
- ② 取得に向けて講師との連携を図り、取得率が下がったものに関しては原因追及を早めに行い次に生かす。
- ③ 前年度退学者が激増したことをきっかけに学生へのサポートや面談、保護者との情報共有をこまめに行った。前年度はいじめによる退学者が多かったのでヒアリングの時間を多く持津ことを意識した。その結果退学者減に繋がった。
- ④ 企業の担当者または本人からの報告により一部の卒業生については把握できている。一部の科で前担任から近況についてのアンケートを卒業生に対し実施しており回答率も低くはない。
- ⑤ 卒業生が来校した際、卒業生の意見をヒアリングしたり直接在校生と交流する機会を設けるなどの活動をしている。

## (5) 学生支援

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
②	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
⑦	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
⑧	卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
⑩	高校・高等専修学校等の連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	③	2	1

### ■状況、課題、改善策について

- ① 担任、進路担当、講師と多くの相談窓口を設け学生が相談しやすい環境作りを行っている。また進路指導室では学内企業説明会、学内就職セミナーを行っている。他、大学編入指導や留学エージェントの紹介なども行い、前年度は9名が個人留学をしている。
- ② 担任が定期的に学生と面談を行い学習、健康、生活面での相談に応じている。担任では対応が難しい精神的な問題については、臨床心理士などの専門家をスクールカウンセラーとして配置し連携して相談にのっている。
- ③ 高等教育の修学支援新制度の更新申請を行い、対象校として経済的に困窮している学生に対してこれまで以上に支援をしていきたいと考えている。また引き続き日本学生支援機構の奨学金制度、入学時の学費サポート制度、2年次特待生、学費の延納・分割納入など様々な側面から経済的に支援する制度も継続していく。さらに低学費の学科設置により、経済的理由で「学びたいをあきらめさせない」学習環境を提供していく。
- ④ 年に一度、学生の健康診断を行っている。保健室も常備し、カウンセラーも配置して精神面の相談もできる体制を整えている。
- ⑤ 希望の学生を対象に定期的に行っているゼミ(エアライン科対象の「仙台空港活性化」ゼミなど)の開講を支援している。また、非常勤講師による授業後の個別指導も活発に行われている。
- ⑥ 学校の近くに学生寮を設置している。ここでは寮監が常駐し、学習面や生活面から進路の相談まで幅広く対応している。
- ⑦ 保護者には前後期の期末試験後、各科目の成績・出席状況を発送し、学習面・出席面について伝えている。また体調不調や悩みによる不登校生の保護者との情報共有に重きを置き、改善に向け指導を行っている。
- ⑧ 卒業後も就職相談に対応している。昨年度は大学編入指導を卒業生に行い、見事志望校合格となった。
- ⑨ 社会人のニーズを踏まえた学科として「1年専科」を開設しているがここ数年、出願希望者はいない。しかし既存学科に、社会人経験者が一定数おり、担任とは違う角度から現役生にアドバイスをするという環境ができている。

- ⑩ 宮専各の仕事体験やガイダンスへの参加により、職業教育の理解を上げている。

(6)教育環境

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように設備されているか	4	③	2	1
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
③	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 講師の8割近くがネット環境を使っでの授業展開を望んでいるので、Wi-Fi環境全館整備を早急に進めたい。時代に合った、より生きた授業展開が出来るよう環境整備を進めたい。教室の椅子と机がセットでないため使い辛いと学生から声が上がっているため購入を検討したい。
- ② 各学科の校外でのインターンシップや企業実習はほぼ以前同様に実施できている。海外研修については、まだ検討の余地あり。
- ③ 大規模の地震を想定した避難マニュアルを作成し、年に2回避難訓練を行うようにしている。内容は災害対策本部の設置、避難経路及び誘導手順の確認、校舎の自衛防衛組織の体制作り等である。特に本校では留学生が多いのでいかに留学生を迅速に誘導できるかが課題である。

(7)学生の受入れ募集

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
③	学納金は妥当なものになっているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 毎月開催している来校型のイベントでは職員一同協力して本校の特徴、学科概要、カリキュラム等を伝え参加者に満足していただき、入学意欲を高める機会にできるよう心掛けている。また、毎月平日にオンラインでの説明会を開催することで、遠方で参加の難しい方・休日が行事で忙しい方に向けても相談の機会を設けた。地方での進学相談会などに関しても積極的に参加し、本校に興味のある方・各分野での就職を考えている方に対して進路決定のためのアドバイスを行っている。進学相談では入学後のミスマッチが生じないよう他校とも比較した上で進路を決めてもらうように説明している。
- ② 教育成果を伝える手段としては「学校紹介パンフレット」「本校ホームページ」「各種イベント」等を通じて伝えており、見やすさ、分かりやすさ、伝わりやすさを意識して制作及び伝達に取り組んでいる。パンフレットは写真や情報の差替えだけにならぬよう、入学検討者が見たい情報・読みたい順番に配慮して構成を再検討して制作している。HPやSNSでは在校生のリアルタイムの情報が発信できるよう心掛けている。オープンキャンパスでは、よりリアルな情報が提供できるように学生スタッフを配置し、参加者との交流時間を設けている。今後とも教育成果を迅速に発信できるよう心掛けていきたい。

- ③ 修学支援新制度の趣旨を踏まえ、本校に入学を希望する学生が、経済的な理由で進学をあきらめることがないようにするため、年間授業料が45万円・分納制で自立進学を可能とする「ユニバーサル型のビジネスデザイン科と国際コミュニケーション科」を設置している。誰もが安心して学べる学校であるために、学納金においては、現在の社会情勢にあわせて常に検討している。

## (8) 財務

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
③	財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
④	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

### ■状況、課題、改善策について

- ①② 当年度決算において学園全体の経常収支は支出超過となった。これは予算編成時点での学生数に若干の見込み違いが発生したためである。そこで次年度の予算編成時はできる限り支出削減に勤め経常収支で黒字になる編成を行うように対応をした。そのため令和4年度単年では赤字となったが、中長期的には学校の財務は安定すると思われる。
- ③ 会計監査は法令に基づき監査法人及び監事により適正に行われている。
- ④ 私立学校法により閲覧に供することが義務付けられている事業報告書及び財務情報についてはホームページで公開している。

## (9) 法令等の遵守

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされてるか	④	3	2	1
②	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	④	3	2	1
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
④	自己評価を公開しているか	④	3	2	1

### ■状況、課題、改善策について

- ① 設置基準を遵守し運営を適正に行っている。
- ② 個人情報に関しては「個人情報への取り組み」(個人情報保護方針)を定め、適正な保護の実現を行っている。
- ③ 自己評価委員会により自己評価を行い、その後学校関係者評価まで実施している。その際に問題点について検討している。
- ④ 自己評価の結果については「学校自己評価報告書」としてホームページによる公開を行っている。

(10)社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
③	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

■状況、課題、改善策について

- ① 検定試験会場として提供した。
- ② 夏休み等ボランティアの案内を行い推奨しており、一部学生は活発にボランティアに参加している。
- ③ 現在は実施していないが、今後実施に向けて検討したい。

(11)国際交流

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
②	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているのか	④	3	2	1
③	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
④	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 海外からの留学生の受け入れについては、日本語科に関しては、令和2年度から3年度にかけてコロナによる約1年半にわたる空白期間があったが、令和4年度に入ってコロナ以前に近い状態に戻った。令和5年度生の募集をしっかりと行うことによって、コロナ時の空白を埋められるようにしたい。  
日本語科については、4月、10月の2回の入学時期に合わせて募集活動を行う。今後はこれまで以上に各国からバランスよく留学生が入学できるよう工夫をしたい。国際総合ビジネス科は、日本での就職を可能にするための支援を強化する。
- ② 日本語科は、法務省の告示校として告示基準に沿って留学生の受け入れ、在籍管理を行っている。日本人学生の海外留学については、短期留学プログラムを実施する予定である。
- ③ 日本語科、国際総合ビジネス科いずれにおいても、担任制度を敷き、学業、生活の両面において、安心して留学生活ができるように最大限の配慮を行っている。今後さらにきめ細かな指導を行えるよう努めていきたい。
- ④ 国際交流センターでの行事や日常の様子を、個人情報取り扱いに十分注意しながら、SNSを通して発信することを重点的に行った。令和5年度もこの取り組みを継続していきたい。